

【詳細資料④】環境に配慮した商品開発のための指針

4R活動を徹底するために「環境に配慮した商品開発のための指針」を制定し、商品設計の段階で確実に配慮されるようにしています。

【指針概要】

● 環境配慮型製品の基本的な考え方

酒類・食品製品は中味が消費された後、容器包装は廃棄物となる。この容器包装が引き起こす環境問題は我々の当面の重要課題であり、消費後に発生する環境問題も我々の責任範囲と考えなければならない。我々は製品設計段階での環境配慮が最も重要でかつ効率的な環境対策である事を認識し環境配慮型商品開発を進めるものとする。

環境配慮型の商品開発を通じて消費者にとっての商品価値の向上、社会的費用の低減、製品競争力強化を実現する環境マーケティングを推進するものとする。

● 商品設計における配慮事項

- (1) 4Rの優先順位を認識した商品開発の推進
- (2) 商品の安全性と調和を取りながら出来る限りの素材の減量化に努める
- (3) リターナブル容器の優先開発
- (4) リサイクルの効率化に寄与する容器改良の推進
- (5) 再生材を出来るだけ使用する
- (6) 塩化ビニール素材は使用しない
- (7) 環境ホルモン溶出の低減化を図る
- (8) 複合素材の利用は避ける
- (9) 消費者に親切なリサイクル表示の推進
- (10) 環境問題解決に寄与する新規技術、アイデアの業界に先駆けた開発、採用を進める

■ 4Rの考え方

